

# 20年来のバドミントン サーブイップスに対 するPCRT介入症例

身体の誤作動信号を紐解く  
「身心相関」のパラダイムシフト

報告者：倉持怜史（接骨院くら）

PCRT歴：4年

## Case Outcome

ターゲット：39歳 女性  
(バドミントン指導者・選手)

罹患期間：発症から約20年  
(大学時代～現在)

介入手法：PCRT（心身条件反射療法）/  
全6回（2022年7月～8月）

結果：サーブイップス完治・パニック  
障害等の慢性症状の安定化

心理症状:パニック障害の既往、  
強い予期不安(NRS:10/10)

身体症状:慢性的な腰痛、  
頸部痛、右肩痛、顎関節痛  
過去に立ち仕事の退職を  
余儀なくされた経緯

主訴:サーブイップス

特に1球目、手首のロックと硬直

小学6年

大学時代

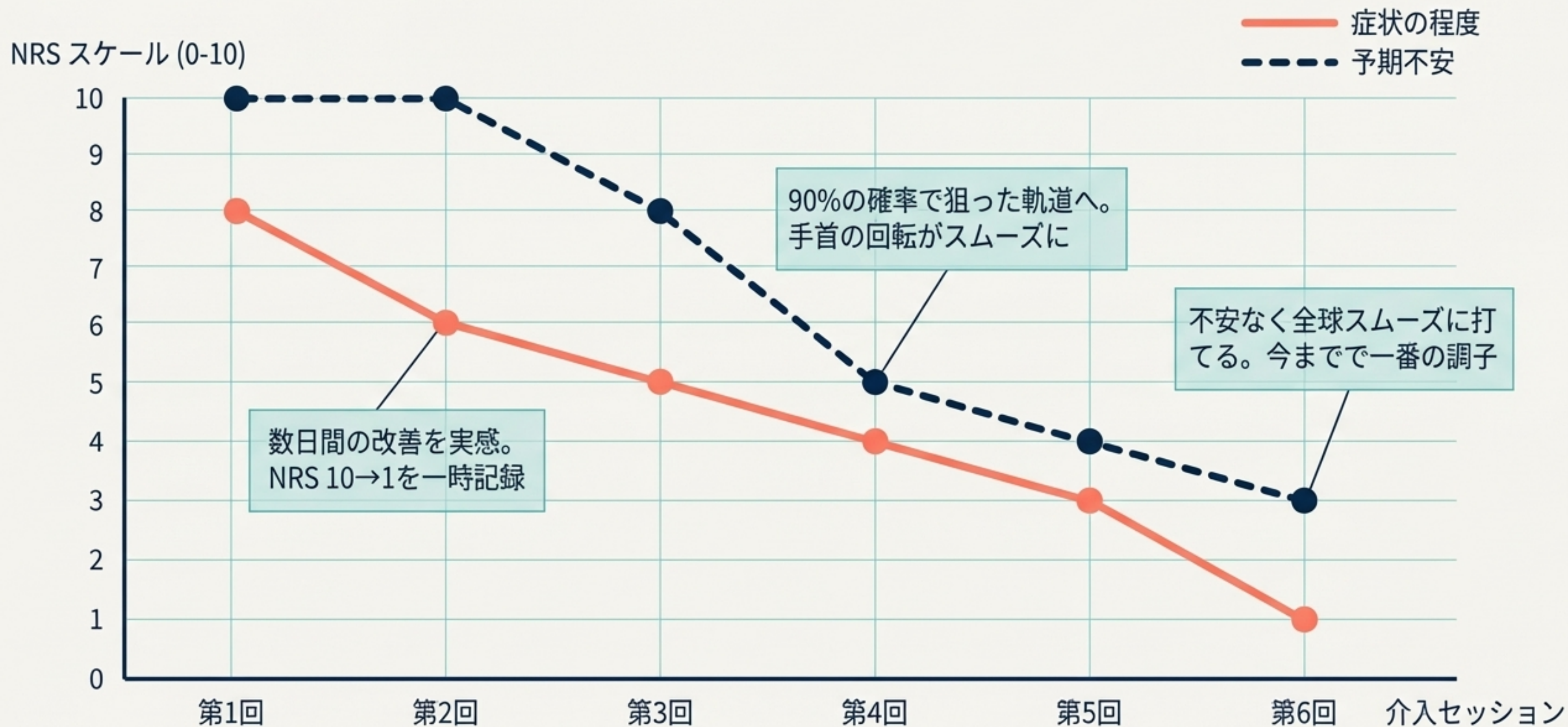
社会人/現在

県大会優勝

イップス発症・悪化

長男のクラブ指導・20年続く慢性症状

# 6週間の回復トラジェクトリー



# 心身信号の解読：深層心理へのアプローチ

## Session 1: 【執着心】

長男の練習に対する執着。「遊びにならず  
しっかりやるべき」という葛藤。

## Session 2: 【挑戦・探求心】

大学時代のバドミントンへの強い意欲と、  
納得できない反復練習のジレンマ。

## Session 3: 【復讐心】

指導者としての葛藤。自分の指導通りに動  
かない子供たちへの不満。

## Session 4 & 5: 【競争心・成長】

幼少期の父親との競争。尊敬する父のよう  
に「成長したい」という強い欲求。

イップスの引き金は「競技そのもの」だけでなく、患者の人生の「信念・価値観」に複雑に紐付いている。

# イップスのメカニズム：ポジティブな引き金のパラドックス

心の揺れ動きと葛藤が  
【誤作動信号】へと変換される。

【ポジティブな信念】  
「挑戦・探求心」  
「もっと上手になりたい、勝ちたい」

【現実の環境】  
「指導者から強制された、  
自身が納得できない打点での  
パターン反復練習」



身体症状の発現：ヒッティング時  
の手首のロック、イップス化。

# 波及効果：「身心相関」による全身的治癒



誤作動記憶の蓄積



- ・サーブイップス
- ・慢性痛（腰・首）
- ・パニック障害

PCRT介入



認知調整による信号の陰性化



- ・手首のロック解除
- ・痛みの緩和
- ・自律神経の安定

「サーブイップスの調整を通じ、日常生活の身体の不調（慢性痛）が安定し、長年困っていたパニック障害も落ち着いた。」

# イップスに対するパラダイムシフト

	従来の視点 (Traditional View)	PCRTの視点 (New Paradigm)
根本的な原因	ネガティブな感情 (不安、恐怖、プレッシャー、逃避)	患者が大切にしている「信念」や「価値観」の複雑な絡み合い
引き金となる感情	失敗への恐れ、周囲からの圧力などの負の感情のみ	「挑戦」「意欲」「探求心」「成長」といった ポジティブな感情の裏側にある葛藤
治療アプローチ	フォームの反復修正、メンタルトレーニング (リラククス法)	身体の反射反応を用いた誤作動信号の特定と、 認知調整法による無意識の紐解き

# Conclusion & Clinical Takeaways



## 可逆的な誤作動

発症から20年経過した重度のイップスであっても、脳と神経の「誤作動」を解除することで短期間（6回）で完治が可能である。



## 隠れたポジティブな引き金

イップスは恐怖だけでなく、「挑戦」や「成長」といった前向きな意欲が現実と葛藤することで生じるケースがある。



## 統合的な「身心相関」治療

局所的な運動障害の治療が、自律神経系（パニック障害）や全身の慢性痛の改善へと波及する。心と体は一つのシステムである。

**「イップスは、必ず改善する。」**